

絵本の時間



保育園では、絵本の読み聞かせを大切にしています。私自身も絵本が大好きで、子どもたちと一緒に楽しみたいと400冊以上の絵本を所有しクラスでいっぱい読んで、遊びに広げて楽しんできました。この「絵本」「読み聞かせ」「読み合う」を通しての効果として・・・

☆大人（親や保育士）と子どもの親密な人間関係の基礎になる「愛着関係の形成」や一緒に絵本を通して思いを共有、共感することで子どもの安心できる時間になる。

☆大人が自分のために読んでくれているという「幸福感」を満喫できたり、読み手も緊張や不安の抑制になったりとリラックス効果がある。

☆子どもの好奇心のきっかけ作り、友達との関わり作り、優しさ、悲しさ、色や物の美しさ、言葉のおもしろさなどに気づくことができる。

☆イメージや創造力が膨らむ

というように絵本の読み聞かせは良いことがいっぱいですね。

短めのお話を理解し主人公の気持ちに共感できるようになるといわれているのが3歳ごろとされています。それまでは興味・関心を持つ身近なもの（食べもの、乗りもの、生きものなど）が描かれているものをじっくり繰り返し見せながら読んでいくといいと思います。読むときは早口にならない、絵が見えやすい位置、子どものイメージを邪魔しない（関心があるページはずっと見ていたりします）、読み終えた後に感想を聞かない（絵本の世界の余韻に浸る時間も大切）というところを少し意識してあげるとより楽しめると思います。子どもと大人と一緒に楽しめる絵本ってステキですね。読み聞かせしたいけどお家に絵本がないよという方、事務所に声掛けてください。絵本をお貸しします。

子どものつぶやき

4月の初めごろのお話です。ある子どもが出勤した私を捕まえて「ねえ、どうして保育園にはてんとう虫がおらんのか？」と尋ねてきました。「どうしてだと思おう？」と尋ねるとうーんといった表情。「じゃあ、てんとう虫ってどんなところにおる？」と聞くと「花のところ」という答えが。その子は保育園の花壇には花がないことに気づき「花ないけおらん」とつぶやいていました。

この会話の中でこの子はお休みの間にどこかで、てんとう虫を見つけて

嬉しかったんだな、保育園に虫がいたら目を輝かせて探すだろうなと感じました。

園庭に虫が来たり、子どもがいろいろなことに気づいたり、経験したりできる自然環境づくりをしていこうと思った一日でした。別の日にだんご虫を花壇付近に100匹以上はなしてみました。みんな園庭から出ていってしまいました。どこか近くにいい住処を見つけて自生してくれたらと思います。次はカブトムシの幼虫を持ってくる予定です。



うずらの卵

子どもたちが数が増えたか気にしているうずらの卵。最近はどんどんと増えていて子どもたちも「また産んどるよ」「いっぱいある」と見えています。先日、子どもたちに卵が見えやすいようにと思ひ虫かごに綿を敷いてその中に卵を移そうとかごから卵を取るといつも穏やかに過ごしているうずらが羽を大きく広げバタバタと走り回り威嚇してきたんです。卵をかごに戻すと落ち着きました。その姿に「子どものためなら母は強し」という思いを感じ、増え続ける卵をどうしようか悩み、困り中の園長です。